

平成26年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 平成27年1月29日（木）
午後3時から
場 所 徳島県立中央病院3階 講堂

1 開 会

2 議 事

- (1) 会長及び副会長の選任について
- (2) 県立病院の取組状況について

3 閉 会

【配付資料】

- 資料1：県立病院の取り組み =新計画スタート！10ヶ月の軌跡=
- 資料2：海部病院移転改築事業
- 資料3：三好病院の今とこれから
徳島県病院事業経営計画の概要

平成26年度 県立病院を良くする会



県立病院の取り組み

= 新計画スタート！ 10ヶ月の軌跡 =

病院局総務課
平成27年1月29日(木)

“健全化計画” から “経営計画” へ

10年前 膨らむ累積赤字。中央病院の改築計画も見直しへ（改善なくして、改築なし！）

経営健全化計画
(H16～H25) 恒常的な赤字体質 から脱却し、
医療提供体制 を再構築する

「中央・三好・海部病院の一斉改築」という **未来への集中投資** へ

新たなステージへ

経営計画
(H26～H30) 充実する医療資源を **県民に還元** する

そのためには…

経営の

好循環を創る



さらに…

病院局が目指す方向性は…

- 1 病院の拠点化**
- 2 グループ力の強化**

1 病院の拠点化

<p>中央病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新生児から高齢者までフルカバーの救命救急 ・ 高い防災対応力を誇る災害医療の要 ・ 志と臨床力の高い医師を輩出する実践教育病院 ・ MZ本部として、高度な医療を提供 	
<p>三好病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救命救急、西の守り ・ 放射線治療から緩和ケアまでフルセットのがん医療 ・ 地域医療支援病院として公立3病院での連携し、地域完結型の医療体制の構築をリード 	
<p>海部病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巨大地震を迎え撃つ前線基地 ・ 地域医療を担う総合診療医の育成道場 	

2 グループ力の強化

中央病院(MZ本部)を核に、
県立病院の力を結集し、県民医療を守る



- ・ ドクヘリの機動力を活かした医師等の派遣・患者の搬送
- ・ 医療情報システム統一による効率的な体制づくり
- ・ 医療人材の育成・交流による 医療の質の向上

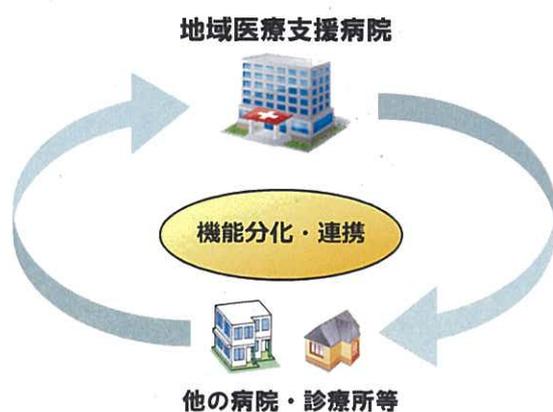
医療の質の向上 

病院拠点化の取り組み

3月

三好、地域医療支援病院に！

- 3月14日、三好病院が『地域医療支援病院』の承認を受けました。



役割

- 紹介患者に対する医療の提供
(かかりつけ医等への患者の逆紹介)
- 救急医療の提供
- 医療機器の共同利用の実施
- 地域の医療従事者に対する研修の実施

4月

中央、DPC II 群病院 に指定される

- 中央病院が、厚生労働省から“DPC II 群病院（高診療密度病院群）”として指定されました。

DPCとは、

- ・ 急性期入院医療を対象とする「診断群分類」に基づく“包括払い制度”

DPC/PDPS Diagnosis (診断) Procedure (処置) Combination (組合せ)
Per-Diem (1日あたり) Payment System (支払制度)

DPC参加病院は、

- 診療データを厚生労働省に提出
- 集められた全国データに基づいて、参加病院を評価(係数の算出)



II 群病院は 99 病院だけ！ (全国1,585の急性期病院中)

I 群	II 群	III 群
大学病院 (80病院)	高診療密度病院 (99病院)	その他の急性期病院 (1,406病院)

II 群病院の中でも 機能評価 で上位に！

- 1位 済生会熊本病院
- 2位 国立病院機構 熊本医療センター
- 3位 倉敷中央病院

- 6位 徳島県立中央病院 (自治体病院1位)
- 10位 小牧市民病院 (自治体病院2位)

8月

三好病院の 新高層棟 が開院！

祝 徳島県立三好病院・新高層棟 完成記念式典



8月16日(土) 『新高層棟・完成記念式典』を開催



災害・救急対応力の強化

(免震構造・ヘリポート・医療ガス設備 等)



フルセットのがん医療

(手術・放射線治療・化学療法・緩和ケア)



医療機器の充実

(リニアック・CT・MRI・DSA)



新生・三好病院については、三好からのプレゼンで >>>

9月

中央、救急医療 功労で表彰される

- 9月9日、中央病院が『救急医療功労者・知事表彰』を受賞しました。

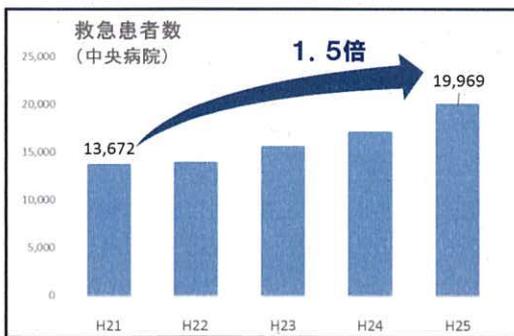


多年にわたる救急医療の功績

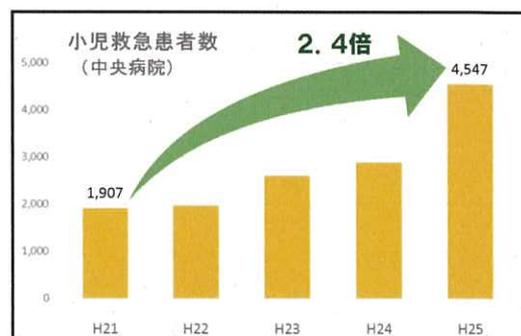
小児救急医療における功績

ドクヘリ基地病院としての功績

救急部門は、 5年間で患者数が急増！



救命救急センター(ER)



小児救急医療拠点病院(H25~)

平成25年 救急患者搬送数（上位10病院）



10月

中央、ロボット手術を開始

- 10月10日、中央病院で最新鋭の『内視鏡下手術支援ロボット・ダヴィンチS i』による前立腺がん摘出手術を実施。



メリット1

患者にやさしい

- 出血、痛みが少ない
- 機能温存が向上
- 回復が早い

メリット2

医師にやさしい

- 立体の拡大画像
- 手ぶれを制御
- 座って施術

メリット3

若手育成に威力

- 2人共同で施術
- シュミレーター搭載

10月

三好、がん指定に向けて申請

- 10月30日、新設の『地域がん診療病院』の三好病院の指定に向けて国へ申請。

《がん診療体制》

質の高い「がん医療」の全国的な"均てん化"を図るため、国(厚生労働省)が指定

都道府県がん診療連携拠点病院

都道府県単位

地域がん診療連携拠点病院

2次医療圏単位

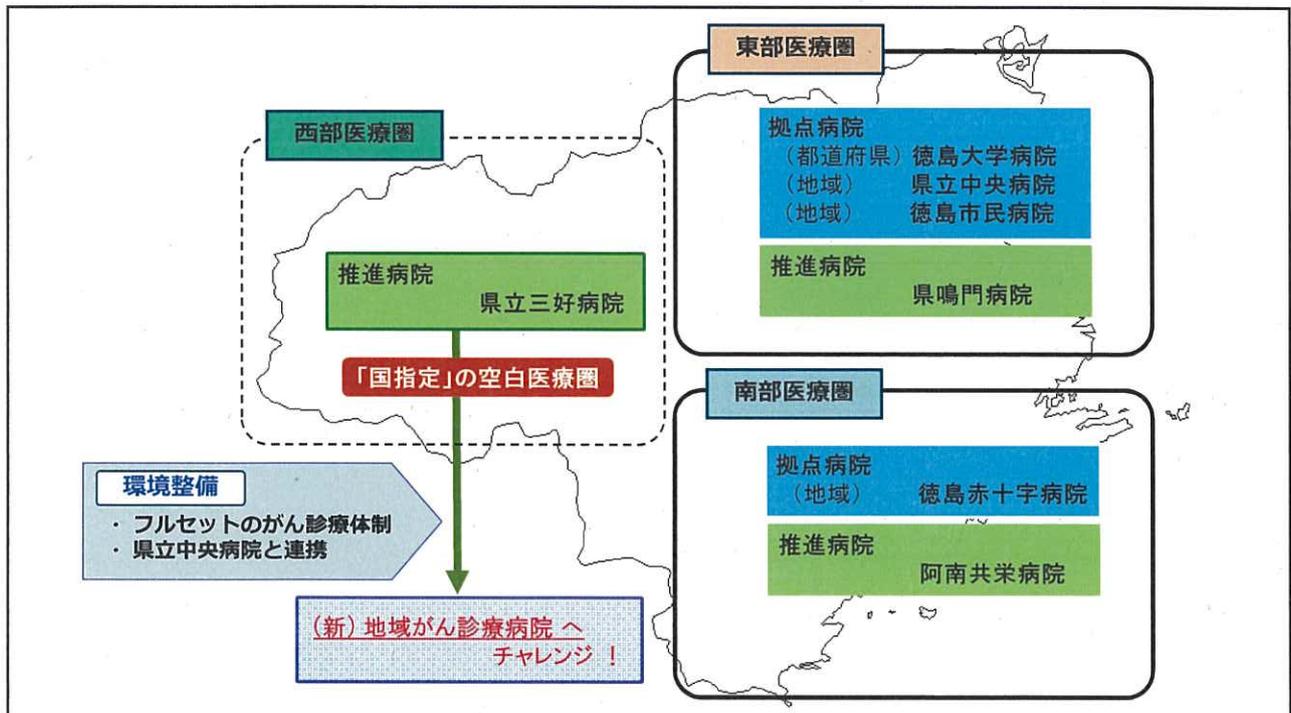
新設

地域がん診療病院

全国108の空白医療圏に

「がん医療」の機能強化のため、県が指定

徳島県地域がん診療連携推進病院



現在

海部、高台移転に向けて 工事中



詳しくは、施設整備室からのプレゼンで >>>

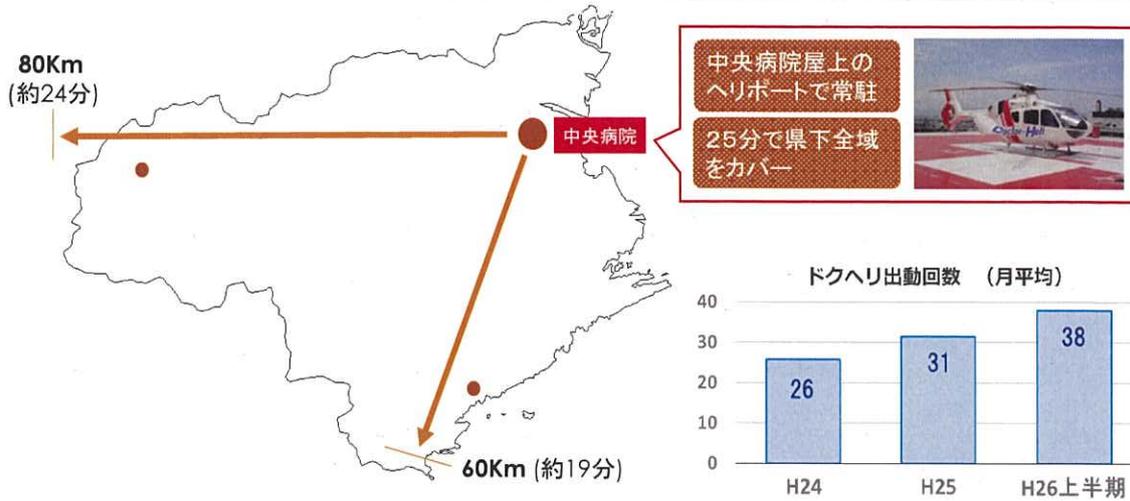
医療の質の向上 

グループ力強化の取り組み

3病院の連携

ドクターヘリ

- 中央病院を基地病院として、県下全域をカバー



3病院の連携

遠隔読影

- 三好・海部病院で撮影したCT・MRI等の画像を中央病院の放射線科医が読影し、レポートを返信



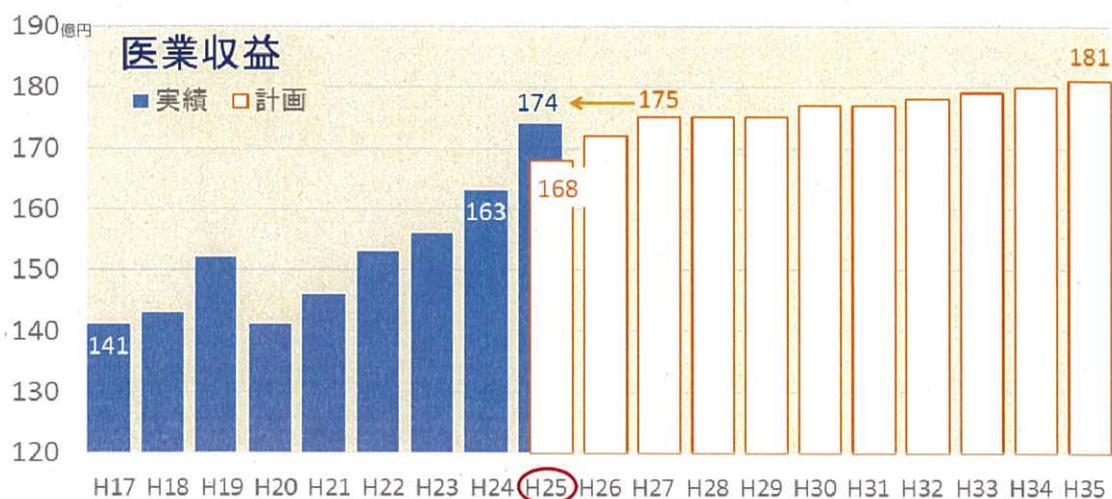
最後に……

収支目標と現状について



医業収益 (本業のパフォーマンスを示すバロメーター)

目標 増益体質を維持し、H24から10年間で18億円の増益を目指す。
H25 目標額を6億円上積み。(計画の2年間前倒しペース)

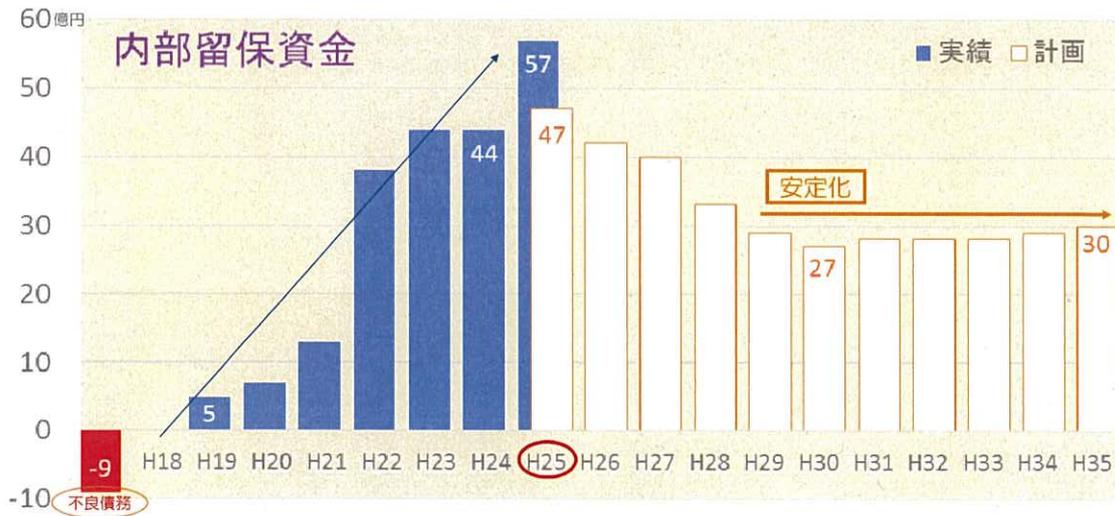


内部留保資金 (事業継続の安定性の示すパラメーター)

* 内部留保資金=流動資産-流動負債

目標 病院改築に係る償却を行っても、内部留保資金の黒字を維持する。

H25 目標額を10億円上積み。



海部病院移転改築事業

東日本大震災の大津波被害の教訓から
抜本的な津波対策として、安全な高台へ移転

平成27年1月29日

病院局経営企画課

県南地域の「新たな防災拠点づくり」を目指す



新病院の「施設整備方針」と「設計コンセプト」

施設整備方針

- ①災害に強い、安全で安心な施設
- ②快適な療養環境の施設
- ③地域に開かれた施設
- ④環境にやさしい施設
- ⑤医療スタッフが働きやすく魅力ある施設



設計コンセプト

「平常時」と「災害時」の双方で、
県南地域の中心的な役割を担える病院

平常時は、急性期を担う中核病院

シームレスにシフト

災害時は、先端災害医療拠点

施設概要

■建設地 海部郡牟岐町大字中村字杉谷
敷地面積：9,283㎡（海拔約15.6m）



■病院棟 建築面積：2,829㎡
延床面積：10,759㎡
構造種別：鉄筋コンクリート造（免震構造）
階数：地上6階、棟屋1階（屋上ヘリポート：最大荷重10t）
病床数：110床（一般102、結核4、感染4）→現状と同じ

■駐車場 平面16台、
立体駐車場167台（屋上ヘリポート：最大荷重12t）

■事業年度 平成26年度～平成28年度

三好病院の今とこれから

徳島県立三好病院

プレゼンター: 院長 住友 正幸

企画・制作: 横佐古 亜弓、岡 真澄

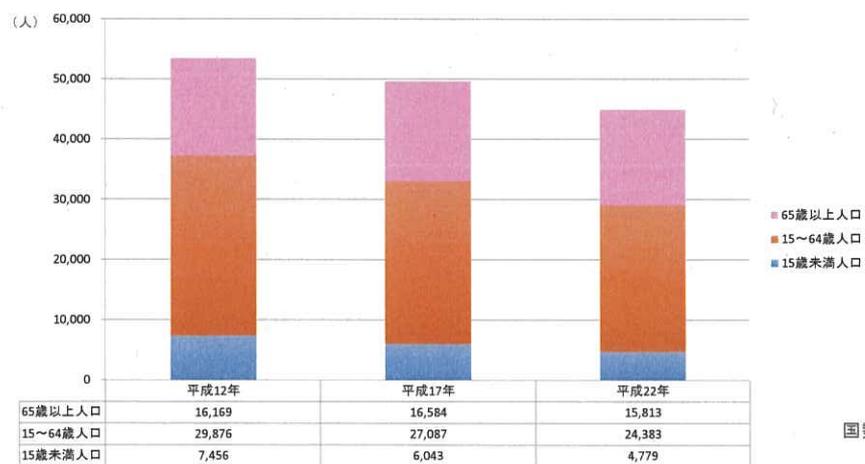
2015年1月29日 県立病院を良くする会 於徳島県立中央病院

徳島県立三好病院の基本方針

- 地域に「信頼」される病院創り
 - いま必要なのは「やさしさ」
 - 明日に必要なのは「ゆめ」

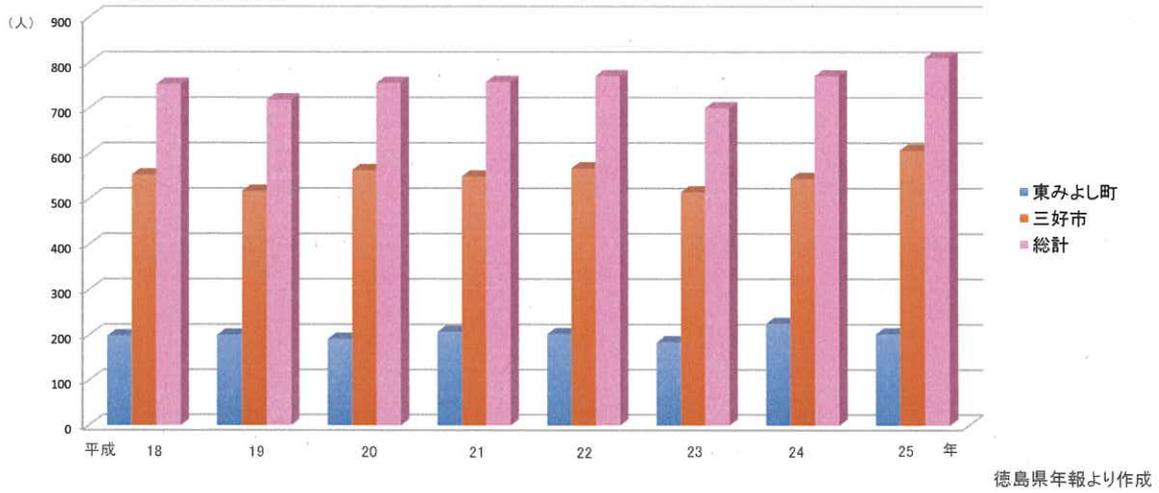
三好病院を取り巻く環境

旧三好郡年齢階層別人口



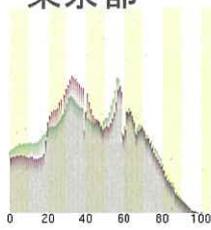
国勢調査より作成

旧三好郡死亡者数

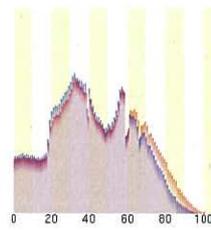


2025年問題と年齢別人口分布

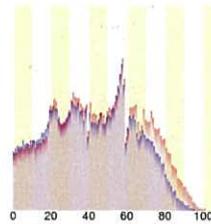
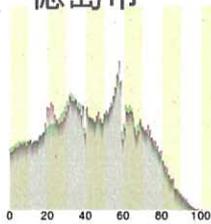
東京都



三好市



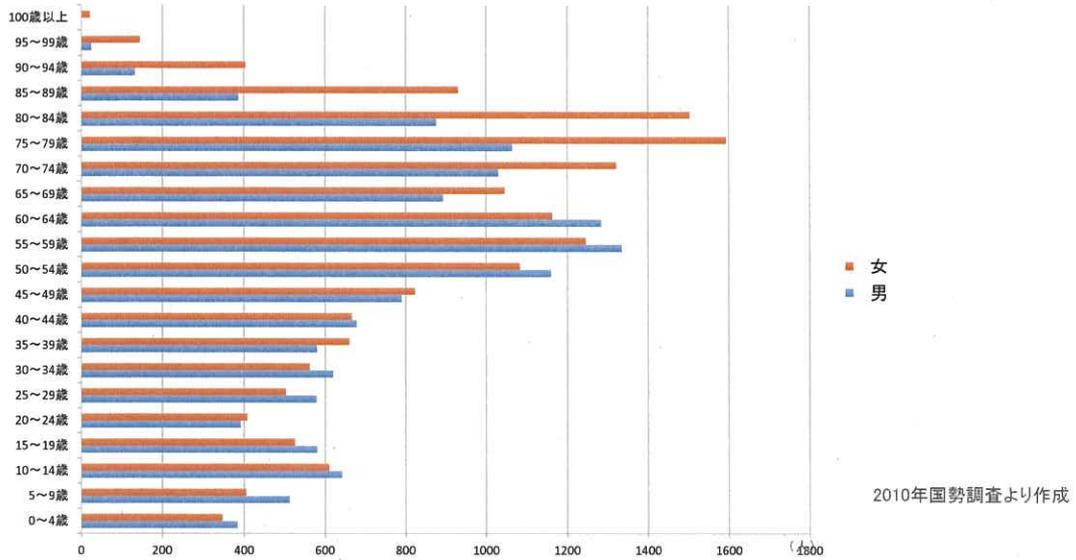
徳島市



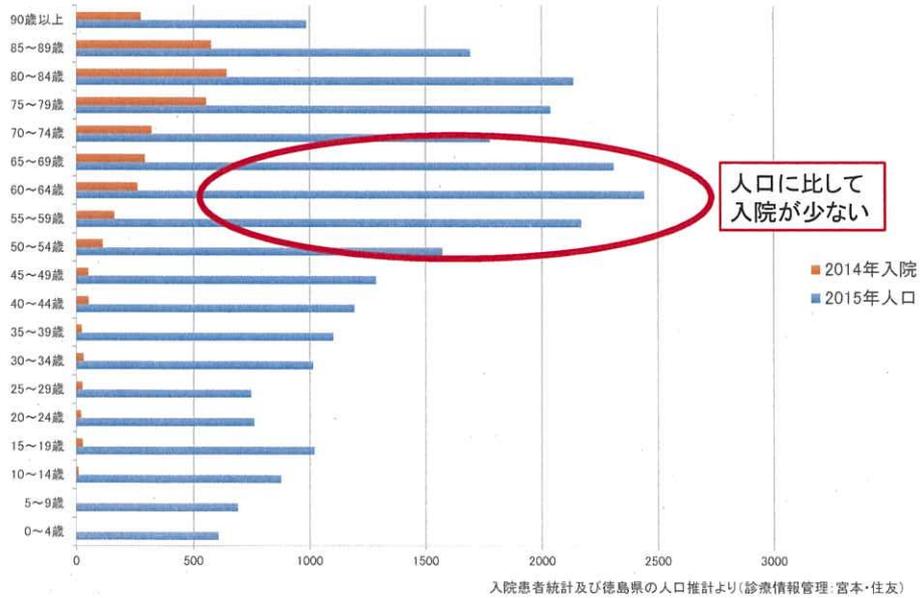
出典Wikipedia
2005年国勢調査より作成

■ 紫色 — 当該地域 ■ 青色 — 男性
■ 緑色 — 日本全国 ■ 赤色 — 女性

三好市年齢別人口分布



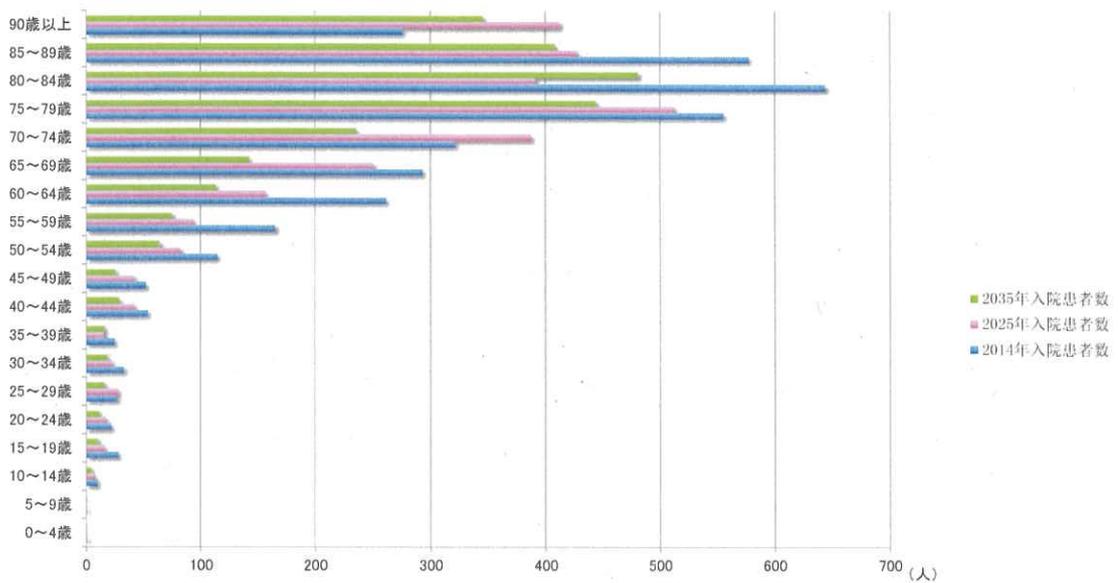
年齢別人口と入院患者



入院患者推計

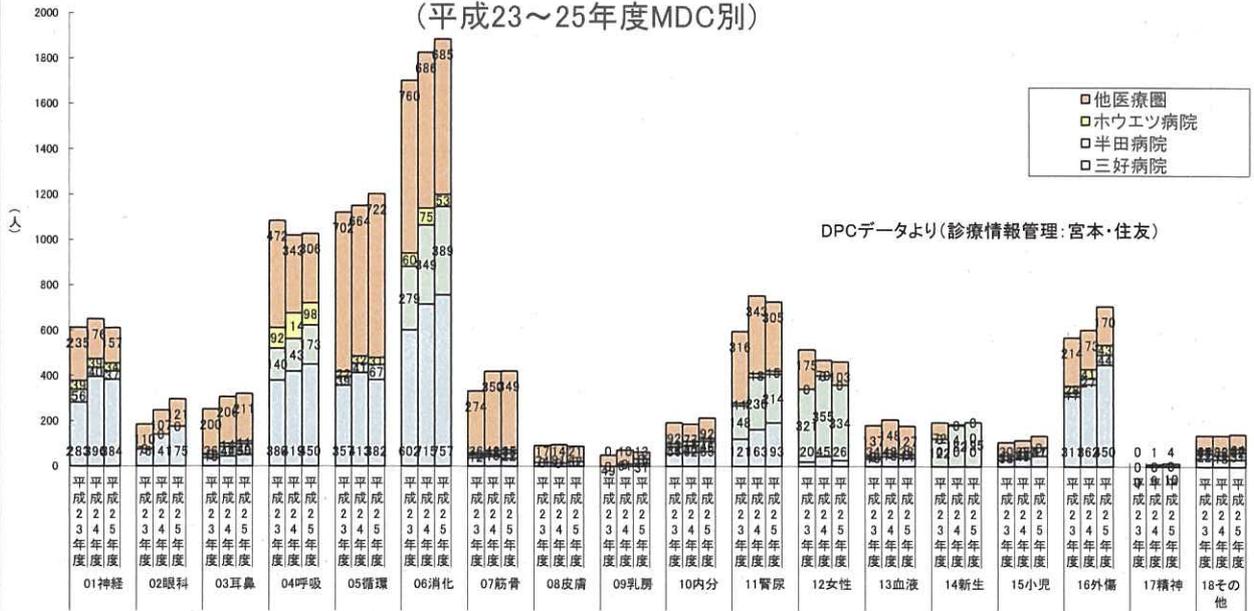
	入院患者数 (人/年)	新規患者数 (人/日)	病床数 (在院日数14日)
2035年	2,068	5.67	79.3
2025年	2,693	7.38	103.3
2014年	3,457	9.47	132.6

三好病院入院患者推計(人口推計による)

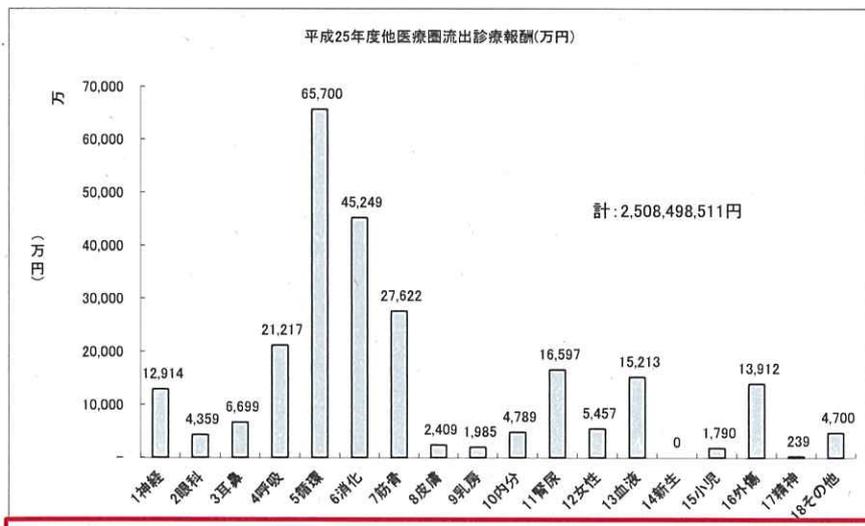


入院患者統計及び徳島県の人口推計より(診療情報管理:宮本・住友)

西部医療圏における三好病院シェア (平成23～25年度MDC別)



DPCからみた他医療圏へ流出



こうした患者さんは西部圏域では三好病院しか治療できない!

DPCデータより作成

西部圏域の中核病院として目指す医療

目指しているもの

- 『フルセットのがん医療』
- 『平時から災害時までシームレスな救急医療』
- 教育・人材育成
- 地域包括ケアシステム

『フルセットのがん医療』

リニアックの導入
緩和ケア病棟の整備

低侵襲治療の推進

集学的治療の実現

がん医療の
更なる発展

- **手術療法**
内視鏡手術(粘膜層下剥離術など)
鏡視下手術(標準治療として)
- **放射線療法**
集学的治療から緩和まで
- **緩和ケア**
在宅を考慮した緩和ケア
がんから全疾患へ緩和普及
- **化学療法**
EBMIによる標準化

「三好で完結できるがん医療」を提供

『平時から災害時までシームレスな救急医療』

局所災害への対応

H26.11.22
長野県北部地震

H26.12.5
県西部雪害

地域と病院の対応は？

平時からの地域交流

- ・勉強会の実施
- ・災害時の体制構築

山間地域との医療連携

災害時医療体制を平時から構築

- 祖谷地域との連携
- ・非常時薬剤情報の収集・蓄積
 - ・東西祖谷診療所のサポート

戦略的災害医療プロジェクト
祖谷・山城地域へ木屋平モデルを導入

後方支援機能の強化

災害・救急の『後方中核拠点』施設へ

- ヘリポート機能の充実
- 指導者(医師・看護師)の育成

災害後方拠点機能整備

- 運航管理室整備 等

第2回 西部圏域災害対策勉強会 in 三好病院

日時：2015年1月22日(木)19:00～
会場：徳島県立三好病院 新病棟 5階講義室
対象：医師、看護師、保健師、薬剤師、企業など災害に関わる総ての
職種の方々

はじめに

三好市医師会長：田岡 清三郎 先生

「地震災害に対する西部圏域の取り組み」

座長：三好市医師会副会長・災害医療コーディネータ
内田 知行 先生

「三好病院のヘリ搬送システム」

徳島県立三好病院：奥村 澄枝 先生

「地域を守る立場から」

つるぎ町立半田病院：河野 誠也 先生

「東南海地震後方支援の立場から」

ホウエツ病院院長：林 秀樹 先生

- 休憩 -

特別講演

「地震災害における初動について」

徳島県立中央病院救命救急センター長
三村 誠二 先生

おわりに

美馬市医師会長：谷口 博美 先生

※徳島県医師会生涯教育委員会認定2単位。CC(1,10,13,73)が付与されます。
※日本医師会生涯教育1単位が付与されます。

主催：三好市医師会
共催：徳島県立三好病院、美馬市医師会、徳島県医師会、三好保健所、美馬保健所
徳島県医師会三好支部、阿美馬支部



西部圏域から発信する
「地域主導型」勉強会の開催

「住民参加型」
「市民勉強会 in 三好病院」
第1回(11月22日)炊き出し訓練
担当：DMAT 黒田
第2回(2月)避難所勉強会



教育・人材育成

あわ
徳島・池田から始める地域医療

- 救急を含む総合医療に対応できる医師の育成
- 地域の医療向上を図れる体制の構築

基幹型臨床研修病院の獲得

総合診療科の開設

専門看護師の育成

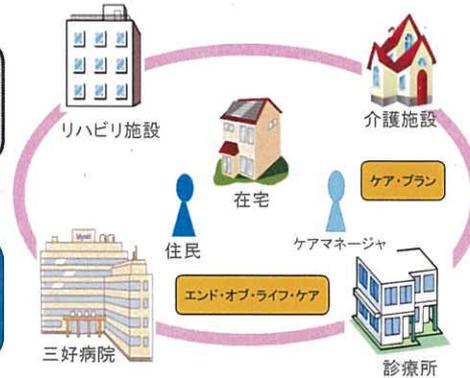
- 救急看護や緩和ケアなど専門性の高い看護師の育成・確保

地域包括ケアシステム

課題

超高齢社会、人口減少の中、
地域住民に求められる地域医療

安心して暮らせる生活を支援する
地域包括ケアシステムの構築



三好病院の役割

- **ケア・プランの積極的支援**
ケアマネと連携を強化した、住民のケアプランの維持・継続
- **エンド・オブ・ライフ・ケア**
在宅、事前指示 (living will) など、住民が望む生き方・逝き方を支援

地域住民の思いを知る



いちばん大切なこと

•地域を知り「信頼」されること

そのために・・・

強い病院を創る

やさしい医療を提供する

地域に貢献する

みんなで地域を守る

患者さんがいま求めているのは

「やさしさ」と「思いやり」

今、変わる時

病院は・・・

県民、地域住民のもの

今、必要なこと・・・

「患者」「職員」への

「やさしさ」と「思いやり」

そして

「信頼」の回復

「ゆめ」を実現するために、今、変わることが必要